

「和き合い愛塾」in ひこさん 福岡県立英彦山青年の家

1 趣 旨

障害のある子どもたちに体験活動の機会と場を提供するとともに、自然体験・共同生活体験など、様々な体験活動を支援し、自主性や協調性を育てる。

2 対象者

県内聾学校に通っている児童４・５・６年生（３回目は、聾学校児童・生徒）

3 日 程

第１回 平成２０年 ７月 ５日（土） ～ ６日（日）１泊２日
第２回 平成２０年１０月１８日（土） ～ １９日（日）１泊２日
第３回 平成２１年 １月３１日（土） ～ ２月１日（日）１泊２日

（１）第１回

参加者	事業対象者	１６名
	小学校ボランティア数	２２名
	ボランティア	１９名

ア 全体の計画

	13:00	14:00		17:00	19:00	22:00	
1日目 7/5	受付	入 所 式	水上スポーツ体験	タベ のつ どい	食事 入浴	星空観察	就寝
	6:30	7:15	7:30	9:00		12:00	13:30
2日目 7/6	起床	朝の つど い	朝食	野外調理（カレー作り）		昼食	退 所 式

イ 主な活動状況

<水上スポーツ体験>

活動の概要

・ペアで協力してカヌーやローボート体験などを楽しむ。

参加者の様子

・活動を楽しみながら、自然とコミュニケーションをとることができた。

配慮事項

- ・聾学校児童と落合小学校児童がペアになって活動するバディシステム
- ・視覚的な合図と多様なコミュニケーション手段の準備
- ・手話通訳者の配置
- ・補聴器の管理

支援体制

・みやこ町職員１９名・ボランティア１９名・教員７名・青年の家職員６名



< 星空観察 >

活動の概要

- ・星について学び、グループで星の観察を楽しむ。

参加者の様子

- ・高学年が対象だったので星の学習をしており、興味を持って活動できた。

配慮事項

- ・活動内容の視覚的な伝達
- ・手話通訳者の配置

支援体制

- ・天文ボランティア 4 名・ボランティア 19 名・教員 6 名・青年の家職員 6 名



< 野外調理（カレー作り） >

活動の概要

- ・グループで役割分担して、準備から片付けまで協力して行う。

参加者の様子

- ・それぞれの役割を責任もってやり遂げることができた。

配慮事項

- ・聾学校児童と落合小学校児童がペアになる役割分担
- ・班ノートを活用した話し合い活動
- ・安全管理、衛生管理の徹底
- ・手話通訳者の配置

支援体制

- ・手話の会 2 名・ボランティア 19 名・教員 4 名、青年の家職員 6 名



ウ 参加者の声

（水上スポーツ体験）

- ・初めてカヌーをしました。バランスがとれて速く進んでうれしかったです。またしたいです。

（星空観察）

- ・学校の理科の星は分かるけど、見たことがない星があったのでびっくりしました。

（野外調理）

- ・みんなと協力して、時間をかけてやっとできたカレー、とてもおいしかったです。

（ 2 ） 第 2 回

参加者	事業対象者	14 名
	小学校ボランティア数	20 名
	ボランティア	14 名

ア 全体の計画

		13:00	13:30		15:30	17:00	20:00	22:00	
1日目 10/18	受付	入 所 式	英彦山探検隊		野外調理 (ピザ)	タベ のつ どい	食事 入浴	班活動	就寝
	6:00	7:15	7:30	8:45					14:00
2日目 10/19	起床	朝の つど い	朝食	英彦山登山			昼食	退 所 式	

イ 主な活動状況

< 英彦山探検隊 >

活動の概要

- ・グループで秋の英彦山を散策する。

参加者の様子

- ・宝探しをしながら、意見や考えを伝えあい、コミュニケーションをはかることができた。

配慮事項

- ・聾学校児童と落合小学校児童がペアになって活動
- ・多様なコミュニケーション手段の準備
- ・手話通訳者の配置

支援体制

ボランティア 14名・教員 4名・青年の家職員 6名



< 野外調理（ピザ作り） >

活動の概要

- ・グループで役割分担して、準備から片付けまで協力して行う。

参加者の様子

- ・力を合わせて小麦粉からピザを作り、食べた班から片付けをすることができた。

配慮事項

- ・聾学校児童と落合小学校児童がペアになる役割分担
- ・班ノートを活用した話し合い活動
- ・安全管理、衛生管理の徹底
- ・手話通訳者の配置

支援体制

・ボランティア 14名・教員 6名・青年の家職員 6名



< 英彦山登山 >

活動の概要

- ・自分の力で英彦山登山に挑戦する。

参加者の様子

- ・全員がリタイヤすることなく英彦山登山をやり遂げることができた。

配慮事項

- ・安全管理の徹底



・手話通訳者の配置

支援体制

ボランティア 14 名・教員 10 名・青年の家職員 6 名

ウ 参加者の声

(英彦山探検隊)

・ヒントの絵と同じところを探して、たった 1 時間だからハラハラ・ドキドキして楽しかったです。

(野外調理)

・みんなで力を合わせてピザを作ることができました。

(英彦山登山)

・特にガケを命がけで下りたときは、我を忘れて頭が空っぽになりました。色々な障害物があったけどみんなと協力して乗り越えてうれしかったです。

(2) 第 3 回

参加者	事業対象者	16 名
	小学校ボランティア数	21 名
	ボランティア	32 名

ア 全体の計画

	13:00	14:15		17:00	19:00	21:30	
1 日目 1 / 31	受付	入 所 式	クラフト (森の写真立て)	タベ のつ どい	食事 入浴	キャンドルナイト	就寝
	6:30	7:15	7:30	9:00		12:00	13:15
2 日目 2 / 1	起床	朝の つど い	朝食	ヒコリンピック (カロリーニング)	昼食	退 所 式	

イ 主な活動状況

<クラフト (森の写真立て作り)>

活動の概要

・ペアで協力して森のイーゼルとフォトフレームを作ります。

参加者の様子

・ペアで協力して、枝を切ったり、切った枝を紐で固定したりして力を合わせて写真立てをつくることができました。

配慮事項

・聾学校児童と落合小学校児童がペアになって活動

・多様なコミュニケーション手段の準備

・安全管理の徹底

・手話通訳者の配置

支援体制

ボランティア 16 名・教員 7 名・青年の家職員 6 名



<キャンドルナイト>

活動の概要

・アイスキャンドルを作り、キャンドルの灯りで過ごします。

参加者の様子

- ・高学年が低学年を支援しながらアイスキャンドルを作り、キャンドルを囲んでコミュニケーションをたくさんとることができました。

配慮事項

- ・安全管理の徹底
- ・手話通訳者の配置

支援体制

- ・ボランティア 16 名・教員 7 名・青年の家職員 6 名



< ヒコリンピック（カローリング） >

活動の概要

- ・グループ対抗で、「カローリング」に挑戦する。

参加者の様子

- ・チームワークを活かして、カローリングを楽しむことができた。

配慮事項

- ・班ノートを活用したグルーピング
- ・安全管理の徹底
- ・手話通訳者の配置

支援体制

- ボランティア 16 名・教員 6 名・青年の家職員 6 名



ウ 参加者の声

（クラフト）

- ・なつきとペアを組んで、木を切るときとかに一緒に手伝ったり、手伝ってもらったりして、協力することができて良かったです。

（キャンドルナイト）

- ・氷は冷たかったです。この作り方を覚えて家でも作りたいです。

（ヒコリンピック）

- ・初めてのヒコリンピックだったので楽しかったです。コントロールが悪かったけど、班の人と協力して、励ましたり応援したりして友だちと仲良くなりました。

4 参加者の声

（１）障害のある児童生徒

- ・コミュニケーションをとるのは難しかったけど、ホワイトボードを使って話をしたので、わかりやすかったです。また、落合小学校の人と話をしたいです。
- ・僕は、今年で最後の交流です。友だちと遊んだり話したりした思い出はいつまでも心に残ると思います。

（２）保護者

- ・いつもありがとうございます。子どもも毎回とても楽しみにしていて、いつも聾学校にいと、なかなか大勢の子どもの中で活動したり、聞こえる子ども集団の行動を見たりして感じる事が無いので、とても貴重な時間だと思います。

って感謝しています。

- ・今回初めて参加し、たくさんのお友だちと一緒に活動することで、色々な経験ができたようです。自主性や協調性を身につける良い機会となりましたので、今後も続けてほしいと思います。

(3) ボランティア

- ・言葉がなくても頑張ればお互い伝え合うことができると分かったので、健聴者の子どもにもそれを分かってほしいです。色々な人と関わって貴重な体験もたくさんできてすごくうれしかったです。
- ・とても楽しい2日間で、普段体験できないようなことをたくさん経験することができました。子どもたちだけで係を決め、手話ができなくても積極的に関わっている子がたくさんいて良かったと思います。

(4) スタッフ

- ・聾学校の子どもたちにとってコミュニケーションの課題が大きく、地域の活動に参加しても楽しめない状況が多くあります。そのような中で、聾学校の子どもたちが学校や家庭とは違う場所で、様々な体験活動ができたことは本当に意義深いと考えています。保護者からも、今後も続けてほしいという声が多くあり、期待の大きな事業であると思います。
- ・3回の交流を考えたとき、3回あったからこそ成果がたくさんあったと思います。夏の体験では、どうしても同じ学校同士の子どもたちと楽しく過ごしたい様子が見えて、交流ができにくいなと感じていました。しかし、秋の体験では、楽しく過ごしている子どもたちの姿が所々見られて、確かに深まりを感じました。そして、最後の交流では、楽しそうな自然な子どもたちの姿を見ることができ、この事業の成果を感じました。参加した子どもたちの間に、とても和やかな気持ちがあふれているのを見て私たち教師もとても温かな気持ちになり、有意義な活動だったと思います。

5 成果と課題

(1) 成果

関係協力者からの専門的なアドバイスによりプログラムの充実が図れ、聾学校児童の実態に合った事業を展開することができた。

協力しなければうまくいかない活動や自然にコミュニケーションが生まれる状況の設定と、多様なコミュニケーション手段の準備により交流が促進され、関係が深まった。

ボランティアが、障害を理解して安全管理・活動支援を行い、事業の効果を高めることができた。

(2) 課題

より体験活動の効果を高めるために、プログラムを作成する段階から関係団体や聾学校、交流学校と積極的に連携する必要がある。

各地域でも障害児の体験活動の機会を保障していくために、障害児体験活動支援のプログラム研究をとおして、学校をはじめ、保護者、関係団体などに積極的に広報・啓発を行わなければならない。